

インターバンクの声（2016 年 5 月 12 日）

各国からの主要な経済指標の発表もなく、これだけ相場に影響しそうな材料が少ないとなれば主要通貨が50～60ポイントの値動きに留まるのも仕方がない。東京時間では浜田内閣官房参与の「日本は為替介入の権利があり、100円まで円が急伸した場合は介入すべき」との発言、海外時間では黒田日銀総裁のドイツ紙とのインタビュー記事で「追加緩和の効果について数ヵ月かけて判断すべきとし、必要なら日銀は一段の金融緩和が可能」と語っていたことが多少は気にされた。それでも黒田総裁の話は、海外勢にとって目新しいものではないと解釈されたようだ。日本語に訳された内容を読むと、追加緩和が実施される公算が小さいとも受け止められてもおかしくなく、円買いが進まなかったのはむしろ助かった感がある。ニューヨーク・ダウが200ドル超下げて引けており、今日の日経平均株価も下がる確率が高そうだ。ゴールデン・ウィーク期間中にドルを買いそびれてしまった人も多いらしく、109円台にあっさり戻すのは難しく見えるが、ドルの下値もさほど深くないかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。